

2009年10月20日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部  
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

### 好業績期待を背景に欧米主要株価指数は高値更新

欧州株式相場は、独自自動車メーカーの好調な決算（暫定）などを背景に、ダウ欧州600株価指数、英FT100、仏CAC40指数などの主要株価指数は相次いで年初来高値を更新しました。米国株式相場も、企業業績に対する期待感から、NYダウ、S&P500、ナスダックはともに年初来高値を更新しました。アナリストの投資判断引き上げを受けた建設機械大手がNYダウ構成銘柄の上昇率トップとなるなど、決算を目前に控えた銘柄の上昇も目立ち、業績改善に対する期待の大きさが窺えました。引け後に発表されたハイテク大手の決算も好内容でした。7-9月期決算は、新学期準備にかかる需要でスマートフォンやパソコンの売上が伸び、前年同期比で+25%増収、+47%増益といずれも市場予想を上回る結果となりました。粗利益率も36.6%と1年前(34.7%)と比べて上昇しました。市場では、厳しい経済環境下においても確実に売上や収益を伸ばしていることが好感されて、市場外取引で大幅高となりました。

### 狭いレンジで小動き

引け後に発表された米ハイテク企業の好決算などを受けて、国内株式相場は堅調に始まりました。朝方は機械株を筆頭に堅調な地合いでしたが、原油先物価格の上昇を受けて鉱業、石油・石炭、卸売業など石油価格の上昇メリットを享受できるセクターが騰勢を強めたほか、銀行や証券などの金融関連株にも買いが入り、株価指数は上昇基調となりました。一方、20年債入札が予想外の不調だったことなどから、債券価格は下落して、10年債利回りは一時、1.36%まで上昇しました。財務大臣が今年度の税収減を国債追加発行で対応するとの考えを示し、国債増発懸念が広がったことも投資家の買い意欲低下につながりました。為替市場では円が主要通貨に対して全面高でした。ドル安基調が続く中、海外メディアに「イランが外貨準備資産から米ドルを除外する」と報じられたこともドル売り圧力となり、ドル円相場は90円前半まで下落しました。ドル安の流れを受けて、原油先物価格は時間外取引で一時、1バレル=80ドル台まで上昇しました。エネルギー関連株が上昇率上位に並んだものの、円高が進み輸出関連株が伸び悩んだことから、日経平均株価も上げ幅を縮小させました。日経平均株価は10,300円近辺で下げ止まるなど底堅さも感じられましたが、日中値幅は50円しかなく、出来高も薄い中、値動きに乏しい展開でした。ただし、上方修正観測が報じられた建機大手が年初来高値を更新するなど、好業績を背景とした個別株を物色する動きは見られました。韓国でも、リチウムイオン充電式電池メーカーの7-9月期の純利益が前年同期比+48%増と過去5年で最高益となり、韓国株価指数の上昇に寄与するなど、世界的に好業績を好感する動きが広がっています。

ブラジルが、金融市場への海外からの投資資金に一律課税すると発表しました。為替市場では、ブラジル・リアルが目立った動きは見られませんでした。国内市場ではブラジル株価指数に連動するETFが急落しました。今年に入り、投資信託などを通じたブラジルへの投資が個人投資家の間で人気化していましたが、金融投資に対する課税を受けて、個人投資家の投資意欲を減退させる可能性が考えられます。

以上